

みず・みち・そら、人へ繋げる HANANAの集い 花き生産地の未来・長沼町の可能性

札幌開発建設部花きPT※

※ 札幌開発建設部花きPT

本懇談会の実施では、札幌各部門から女性職員を中心にプロジェクトチームが作られ、すべての作業を行った。メンバーは斎藤雅子（広報専門官）、河合孝子（河川計画課）、堀田美和子（道路調査課）、新津由紀（農業整備課）、廣川まどか（地域振興対策室）、事務局は技術企画課。

札幌開発建設部では、「みず・みち・そら、人へ繋げるHANANAの集い～花き生産地の未来 長沼町の可能性～」と題し、2010年12月9日に新千歳空港国際線ターミナルで懇談会を開催しました。これは、札幌が建設を進めていた道央圏連絡道路（一般国道337号）新千歳空港関連の供用開始を前に行われたものです。

懇談会では供用開始区間に近い長沼町の花きに焦点をあて、生産・流通・消費に札幌の社会資本整備がどう関連しているか、各事業部門から説明を行い、花き生産地の未来と題し意見交換を行いました。

本稿では、懇談会の概要を紹介します。

挨拶

長沼町では北海道で作られるほぼすべての種類の農産物を生産しており、北海道農業の縮図を本町で見ることができます。

道の駅マオイの丘公園をはじめ、町内の共同直売所6カ所で年間約4億5千万円を売り上げています。農産物を加工販売するグループがあり、みそや漬物



戸川 雅光 氏
長沼町長

を中心に、町内や札幌市などで販売しています。消費者との交流・理解をさらに深めるため、グリーンツーリズム事業を推進しており、修学旅行生をはじめ6年間で2万人を超える利用者がありました。また、町内で花いっぱい運動を展開しており、毎年6万3千株を地域の方々で植栽しています。これらの活動の中心は女性です。

花き生産農家の方々は、本場ヨーロッパの花き栽培現場を視察するなど活発に活動し、今では年間2億円を超える売上実績をあげています。

これからは、道央圏連絡道路の整備で空港までの所要時間が短縮され、空港までの農産物の移送に役立つほか、グリーンツーリズムでも参加団体の移動時間短縮が図られ効果が大きいと感じます。その上で、未整

備区間の1日も早い開通が道央圏域の発展に大きく寄与すると思います。事業の推進に期待しています。

花き栽培の現状

花き栽培は水田転作を利用しています。主力産品はりんどうで、平成7年から生産を開始しています。南空知4町で生産高は現在6億円弱です。

出荷経路は、全量、新千歳空港からの空輸で、なにわ市場、姫路市場にも出荷しています。出荷時期は6～10月の月・水・金の表日の競りにめがけて出荷しています。採花から輸送、競りまで2～3日はかかっています。今後の課題は、箱から出たらどこの産地の花なのかわからない状況なので、何とか長沼産ということを消費者にアピールできないかと考えてます。花きの流通は新千歳空港を通じて全国、世界とつながっていますので、道央圏連絡道路が長沼まで開通すると輸送面で便利になりますので、今後とも事業の進捗には期待しています。



安田 守 氏
長沼町花き生産組合長

パネルディスカッション

花き生産地の未来

グリーンツーリズム



コーディネーター
かとう けいこ 氏
シーニックバイウェイ支援
センター広報部長

立地を生かし、取り組んでいます。札幌圏の生徒に日

かとう 長沼と言えばグリーンツーリズム、修学旅行生受け入れの成功が有名ですね。塚田さんはグリーンツーリズムを始めるときの担当だったということですが教えてください。

塚田 生産農家と消費者が交流し、食の大切さ、農業を知ってもらいたいという町全体の気運から、新千歳空港や札幌に近い

帰りで農業・農村を体験してもらう形態や都府県の修学旅行生を宿泊で受け入れる形態の二形態で行っています。1年目の平成17年度は、1校154名でしたが、6年目の22年度には25校4,566名の受け入れがあり、子供たちは本物の農作物の味を体感し、食べ物に対する関心を高め、先生からも高い評価をいただいています。農家民宿を利用する修学旅行生はすべて道外で、3～4割はリピーターとなっています。



パネラー
塚田 艶子 氏
長沼町学校教育課理事

かとう この前長沼町で前田さんにお話をうかがったときに、修学旅行生受け入れをしているということでしたが、やってみてどうですか。

前田 今年で4年目になります。学生には、りんどうの草取りや、収穫から選別、出荷までの作業をしていただきます。毎回ですが、学生たちと仲良くできるか不安に思います。そこで私は、常に子供たちの名前を覚えるようにして出会ったときに名前を呼ぶようにしています。そうすると子供たちもほっとして、仲良くなるきっかけになります。子供たちが本当の家族のように接してくれて、田舎の暮らしを満喫している姿を見ると、よかったなと心から思います。作業も2時間ほどですが、汗を流しながら一生懸命やってくれて、助かりました。

かとう 今話を聞いているとグリーンツーリズムというより、グリーンライフツーリズムというか、農村の暮らしを提供して一緒に楽しんだりしてるのだなと思いました。



パネラー
前田 澄子 氏
南空知花き生産組合生産者



消費者とのつながり タヤけ市・コポロの会

かとう 長沼町ではタヤけ市を行っているとのことでしたが、その話を教えてください。

濱 生産者が直接消費者と関わることがなかなかないということで、町や商工会と、街中でタヤけ市という直売を行っています。花き生産者が花を持ち寄り販売しています。花が日持ちがよく、値段が安いということで喜んでもらえたり、長沼町でこんなきれいな花も作っているということを知ってもらえる機会になりました。自分が生産したんだと言うと、こんな暑い中ハウスに入って大変だねと声をかけてもらえたりして、はげみになります。

かとう 消費者と生産者が会う機会は少ないので、よい取り組みですね。ところで、常本さんのプロフィールにコポロの会長沼支部長とありますが、「コポロの会」とはどういう会ですか。

常本 長沼町と近隣の4町の花き農家の奥さんたちのサークルです。長沼町では現在32戸の会員がいて11年目になります。目標は、自分たちの花のPR活動をしようということで、長沼町役場と健康福祉センターで花を飾らせていただいています。私たちが作った花を町民に見てもらいたくて、季節の花の展示を行っています。とても好評で、また頑張ろうという活力になります。「コポロ」というのは、アイヌ語で「成長する」という意味です。私たちも、花とともに成長したいという意味を込めて選びました。

かとう 優しいフレーズで意味もすてきですね。



パネラー
濱 初美 氏
南空知花き生産組合生産者



パネラー
常本 トシエ 氏
南空知花き生産組合生産者

長沼町の花の魅力“りんどう”

かとう 長沼のりんどうを知事に毎年贈呈していますよね。りんどうを露地栽培しているのですよね。私はてっきりハウスで栽培していると思っていました。

前田 7月初めの早い時期と10月末の遅い時期に咲くものはハウスで作っていますが、それ以外は露地栽培です。10月末から咲くりんどうは深山秋^{みやまあき}という品種ですが、とてもきれいなのでぜひ見に来てください。

かとう そうですか。ぜひ見に行きたいと思います。さくらさんは日本を代表するアーティストとして、北海道の花をたくさん扱っていますが、長沼町の花の感想を聞かせてください。



パネラー
清水 さくら 氏
花保専務取締役

清水 最近、花の産地や生産者に興味が出てきています。花屋というのは、インターネットや市場で花を買うのが主流ですが、イベントのときに、生産者の方が苦勞して丹精込めて作っているのを目の当たりにしまして、色もきれいだし、丈夫だし、切ってすぐ選別、水揚げをしている花はよくないはずが

ないと思いました。このような色鮮やかな花を使えるのは、北海道にいて一番の幸せだと思っています。りんどうの花束はグラデーションもすごくきれいで、私は一番だと思います。とてもすてきです。

かとう 育てている人だから、その花の美しさをわかっているということですね。

清水 そうだと思います。育てている人がどういう長さで切って活けて、この角度で写真を撮ってほしいとか一番わかっていると思います。私たち花屋はそれにちょっと手を添える程度でいいのかなと思っています。

かとう この会場には、たくさん花が飾ってありますが、これはさくらさんに作ってもらった作品ですよね。さくらさんに説明してもらってよいですか。中央の花の中に長沼の花があるのですよね。

清水 そうです。「うめもどき」という赤い実の花ですが、今の時期もすごくきれいだし、お正月のお祝い
の花とかにすごく合う物です。今回はグリーンの中で、
ヨーロッパの「アマリリス」と合わせているんですが、
外国の花と合わせても「うめもどき」がしっかり主張
しているという感じがして、私はとてもすてきだと思
います。

かとう 長沼の花を使ってもらえてうれしかったです。

北海道の花きPRを新千歳空港で

かとう 北海道の玄関口である新千歳空港に飾ってあ
るお花について、何か思うことはありますか。

廣川 今回のテーマである花を意識して空港内を見て
みました。意識するとあちらこ
ちらに生の花が飾ってあり、お
もてなしの心は伝わりましたが、その時期その季節にあった
北海道の花でお客様を迎えるこ
とができたらさらによいのでは
と思います。



パネラー
廣川 まどか 氏
札幌開発建設部地域振興対
策室

かとう その時期の花で新千歳
空港を降りたときに迎えてくれ
た方が、私たちもうれしいです

ね。生産者の方々はどうですか。

常本 やはり自分たちで作った花が、そういう場所に
飾られたり、テレビとか雑誌に出たりしたら、うれし
いですね。

かとう そういう季節にあった花の「香り」だとか「風」
をお伝えできる空港であつたらいいなと思います。塚
田さん、修学旅行を対応しているとき、空港に迎えに
行かれたことはありますか。

塚田 空港に迎えに行くことはなかったのですが、今
回の千歳空港関連道路の供用で、空港と長沼町の距離
がより短く身近に感じられ、交流人口が増えるのでは
ないかと思っています。修学旅行生が到着し道内旅行
のスタートとなる空港に、これから向かう長沼町の花
が飾られていたらすてきな歓迎になると思います。

かとう 今よりさらに花であふれている空港だつたら
いいですね。

さくらさん、海外や国内の空港、街で印象に残って
いる場所はありますか。

清水 海外だつたらオランダです。たくさん花を飾っ
ているというわけではないのですが、花や球根を売っ
ているスペースがあつたり、ヨーロッパで一番の花が
集まる流通の場所で、いつもお花に囲まれている感じ
がします。日本では京都の街です。生け花の家元が多
いので、質のよい花が集まる街ですてきだと思います。

かとう 私も10月にオランダに行きましたが、空港で
球根や種をいっぱい買いました。やはり新千歳空港で
も将来的には旅行者が花束を買って帰ることができる
ようになったらいいですね。北海道の空気を本州に届
けたいです。北海道はガーデニングもすごく盛んです
ので、ガーデニンググッズや苗を北海道に買いに来る
人たちに対して、ショップが空港にあつたらいいなと
思います。

清水 お菓子プラス1本のお花を買って帰ってもらえ
るようになったらいいですね。

かとう 花1本でも北海道の物、空気を持って帰って
もらえるとなるとよいですね。濱さん、前田さん、
常本さんには、この花はすごかったという場所があ
りますか。

濱 身近なところでは恵庭市がすごいと思います。道
の駅に行きましたが、かなり見応えがあり、ガーデニ
ングもとてもすてきです。

前田 私は長沼ですが、「花いっぱい運動」というこ
とで、道路沿いに苗を植えて、道行く人を楽しませ
ている感じがよいと思います。やはり長沼がすてきです。

常本 九州とか沖縄に行きますと、花にあふれていて、
花をあえて飾るという行為はいらぬのですよね。オ
ランダの話も出ていましたが、オランダも必ず玄関先
にはガーデニングがあり、家を建てる時には花を飾
る施設を必ず作るような国での取り組みがあるよう
です。私も夏の暖かいときぐらいは窓側に花を置いて、

道行く人に見てもらいたいという気持ちはあります。

生活の中での花きの生かし方

かとう 「グリーンツーリズム」から「グリーンライフツーリズム」だという話をしました。花は食べ物と違ってなくても暮らせるわけですが、花があると優しい気持ちになれるので、みんなが一輪でも花を買って飾ってくれるといいと思います。生産者、販売者の皆さんはいつも花に触れているわけですが、私たちが暮らしの中でどのように花を活用したらよいか、何かヒントがあったら教えていただきたいのですが。

清水 暮らしの中で、一番身近なのは野菜の花です。大根などを切ったときに芽があれば、それを水の入ったお皿に入れ、芽が出てくるのを楽しむのもよいと思います。また、折れた花をお風呂に浮かべ香りを楽しんだり、たくさんのお花でなくても一輪の花をどう楽しむかを結構最近考えたりしています。

今後の花き生産への夢

かとう 最後に皆さんからこれからやりたいこと、夢を一言、語ってください。

常本 私は健康な花を作るには、まず家族や自分が健康でなければいけないと思っています。これからも花に携わっていきたいと思っていますので、自分の健康、家族の健康を大事にしていきたいと思っています。

前田 来年りんどうの苗を1万本植え付ける予定です。これからも花き生産に頑張っていきたいと思っています。

濱 自分の育てたトルコキキョウで、娘の結婚式のフラワーシャワーができるまで作り続けたいと思います。

塚田 私は生産者ではないのですが、生産者の皆さんが手間ひまかけて作った花が長沼町のブランドとなり、日本国内に広がっていくよう応援していきたいです。

人へつなげる

廣川 長沼町は花だけではなく、さまざまな農作物、特産品、観光スポットがあり、知名度も高いです。グリーンツーリズムは、都会の人たちへの癒しの目的もあると思います。都会の人が北海道に来て田園風景で癒されたいと思ったときに、いろいろ有名な場所があ

りますが、実は長沼町だけで北海道を十分感じられると思います。空港から長沼町に入って、田園を散歩するだけでもいいし、ファームレストランでおいしいものを食べる、花を見る、時間があれば花に触れてみる、そういうことが全部できる可能性がある町だと思います。現在、それらの魅力が点在しているの、点在する魅力をつなげていくことが大切だと思います。先ほど札建の事業を紹介しましたが、ハードな事業以外にも、地域の魅力をつなげる、人と人をつなげるということでも皆さまのお役に立てると思っています。長沼町の魅力を生かすお役に立ちたいと思っていますので、どんどん私たちに声をかけてください。

かとう 皆さんの話を聞いて、長沼の花といってもたくさんあり、すごく多様性があるなと思いました。そういうたくさんのお物をみんなであうまく積み重ねていくことが必要です。それは生産者だったり、長沼町役場も含めて既に始まっていると感じました。廣川さんも「つなげる」と言いましたが、「積み重ねて」「つなげて」、そして今度はそれを誰にどんな方法で「伝えるのか」が重要だと思います。よいことをしているし、資源もあります。知られていなかったらもったいないので、もっと世の中に対してアピールする方法を考えましょう。役場や開発建設部さん、そして私たち民間人が知恵を出し合って、誰を呼びたいかということ町民含めて、積み重ね、つなげて、もっと力を入れてやれば、とても可能性に満ちあふれた地域だと思います。今回、この会を新千歳空港国際線ターミナルで開催したことも、今後の長沼をはじめとした石狩、空知地区の花き生産地としての国際化を示唆しているように思います。

私たちのこの意見交換会が何らかのきっかけになるとよいと思います。ありがとうございました。

